

「令和7年産 麦作情報（第2号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象の概要（1月20日～2月10日までの気象、平年と比較して）

- 平均気温…0.2℃低い。
- 降水量……少ない。（平年比 67%）
- 日照時間…長い。（平年比 117%）

2. 麦類の生育状況

（1）農試情報田の調査結果（2月12日付け 麦づくり情報第2号）

品種	播種期 (月/日)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)	概況 (平年・平均と比較して)
シロガネコムギ	11/20	本年	9.2	807	5.9	54.3	<b>[気象]</b> 1/20～2/10まで ◆平均気温…平年並み(平年差-0.2℃) 1/5 半旬:8.8℃(平年差+3.2℃) 2/2 半旬:1.9℃(平年差-4.3℃) 寒暖の差が激しい ◆日照時間…長い(平年比 117%) ◆降水量……少ない(平年比 67%) 積雪:2/4～2/5
		平年	21.7	707	5.9	45.4	
	平年差(比)	42	114	±0.0	+8.9		
	12/10	本年	7.5	321	3.4	51.7	
平年		14.3	451	4.3	48.9		
平年差(比)	52	71	-0.9	+2.8			
サチホゴールデン	12/2	本年	9.0	491	4.1	44.1	<b>[生育]</b> ◆草丈 全品種・全作期において、過去10年間で最も低いレベル。 ◆茎数 11/20「シロガネコムギ」は多く、その他は少ない。 ◆葉齢 11/20「シロガネコムギ」は平年並み、その他は少ない。 ◆葉色 12/2「サチホゴールデン」、「はるか二条」は平年並み、12/10「はるか二条」は平年よりやや濃い、その他は平年より濃い。
		4ヶ年平均	15.4	857	5.3	44.1	
	平年比(差)	58	57	-1.2	±0.0		
	12/10	本年	8.6	450	3.6	45.4	
平年		12.8	555	4.1	42.9		
平年比(差)	67	81	-0.5	+2.5			
はるか二条	12/2	本年	9.0	425	4.0	49.4	◆葉色 12/2「サチホゴールデン」、「はるか二条」は平年並み、12/10「はるか二条」は平年よりやや濃い、その他は平年より濃い。
		4ヶ年平均	14.3	825	5.0	49.8	
	平年比(差)	63	52	-1.0	-0.4		
	12/10	本年	8.9	427	3.3	49.1	
7ヶ年平均		13.1	551	4.1	47.4		
平年比(差)	68	77	-0.8	+1.7			

## 農試情報田の生育ステージ

品種	播種期 (月/日)	年次	幼穂形成始期 (月/日)	節間伸長開始期 (月/日)	莖立期 (月/日)	出穂期 (月/日)
シロガネコムギ	11/20	本年	2/3	未	未	未
		前年	1/26	2/11	2/13	5/18
		平年	2/2	2/19	2/19	5/23
	12/10	本年	未	未	未	未
		前年	2/14	2/20	2/24	4/1
		平年	2/21	3/1	3/4	4/5
サチホゴールデン	12/2	本年	未	未	未	未
		前年	1/29	2/16	2/20	3/28
		平年	2/6	2/23	3/2	3/29
	12/10	本年	未	未	未	未
		前年	2/2	2/20	2/20	3/31
		平年	2/12	3/3	3/5	4/3
はるか二条	12/2	本年	未	未	未	未
		前年	1/29	2/16	2/20	3/29
		平年	2/6	2/22	3/4	3/28
	12/10	本年	未	未	未	未
		前年	2/1	2/20	2/20	3/31
		平年	2/11	2/27	2/28	4/1

## (2) 三神農業振興センター情報電 調査結果 (調査日: 2/10)

場所	品種名		播種日	苗立ち数 (本/m <sup>2</sup> )	草丈 (cm)	莖数 (本/m <sup>2</sup> )	主稈 葉数(L)	備考 (平年と比較して)
上峰	シロガネコムギ	本年	11/23	177	20.6	723	5.4	・平年の播種日は11/15~12/8 ・草丈はやや高く、莖数は多かった。 ・葉齢から見た生育はやや進んでいる。 ◆幼穂長 1.1mm、節間長 3.9mm
		平年	11/26	157	19.7	576	5.1	
		平年比(差)	-3	113	105	126	+0.3	
吉野ヶ里	はる風ふわり	本年	11/25	125	13.3	533	4.9	・平年の播種日は11/15~11/23 ・草丈は低く、莖数は少ない。 ・葉齢から見た生育は遅れている。 ◆幼穂長 0.6mm
		4ヶ年平均	11/19	119	20.1	734	6.6	
		平均比(差)	+6	105	66	73	-1.7	
鳥栖	はるか二条	本年	11/22	145	13.9	504	4.7	・平年の播種日は11/20~11/27 ・草丈は低く、莖数は少ない。 ・葉齢から見た生育は遅れている。 ◆幼穂長 1.8mm、節間長 5.5mm
		5ヶ年平均	11/22	123	16.7	567	5.7	
		平均比(差)	±0	118	83	89	-1.0	

注1) 「シロガネコムギ」の平年値は、H26~H29及びR4~6の7ヶ年のうち、収量が最高値と最低値の年を除いた5ヶ年の平均。

注2) 「はる風ふわり」平年値は、調査を開始したR3年産から4ヶ年の平均値。

注3) 「はるか二条」平年値は、調査を開始したR2年産から5ヶ年の平均値。

注4) 幼穂長及び節間長は、主莖の計5本を計測した平均値。

## (3) 管内の生育概況

- ・今年には播種が遅れた圃場も多く、平年より気温がやや低く推移したこともあり、草丈は平年より低く、生育が遅れている。
- ・11月下旬に播種された小麦では、現在5~6葉期となっており、分けつの抽出が旺盛となっている。
- ・12月上中旬に播種された大麦では、現在4~5葉期となっており、分けつの抽出が旺盛となっている。

### 3. 今後の管理

#### (1) 穂肥

- ・本年の生育は、平年並みかやや遅れていることから、2月下旬頃から施用する。ただし、麦踏みと同時に施用する場合、茎立ち期前までに実施する。
- ・茎立ち期を迎えた圃場では、麦踏みと同時に施用は避け、動力散粒機やブロードキャスター等で全面散布を行う。その場合、施肥量を基準より1割程度増やす。
- ・肥効を高めるため、穂肥後に土入れを行うとより効果的である。
- ・ビール大麦は、品質基準（粗タンパク質：10～11.0%）を満たすため、下記表を参考に穂肥を施用する。

(参考) サチホゴールドの穂肥診断基準（農試）

(窒素成分 kg/10a)

		2月の降水量(mm)		
		40	80	120
3月上旬の葉色(SPAD)	38	1.8	—	—
	40	1.2	—	—
	42	0.6	4.2	—
	44	—	3.6	—
	46	—	3.0	—
	48	—	2.4	—
	50	—	1.8	—
	52	—	1.2	—
	54	—	0.6	4.1
	56	—	—	3.5

・子実タンパク質含有率の目標値  
10%

・3月上旬の茎数  
900本/m<sup>2</sup>  
(仮定)

#### (2) 麦踏み（3葉期以降）

- ・必ず圃場状態を確認し、土壌が乾燥した状態で行う。  
土壌水分が高い時に麦踏みを行うと土が締まり、湿害を助長する。
- ・3葉期以降に実施し、麦生育の回復を待って、条件が良いときに3～4回実施する。
- ・麦踏みの晩限は、茎立ち期（節間長2cm・草丈約25cm程度）前までである。  
茎立ち期以降の麦踏みは、初期分けつが折れ、穂数の減少や倒伏抵抗性が低下するため実施しない。

##### 【麦踏みの効果】

①耐寒性向上 ②根量増加 ③短稈多分けつ型への誘導 ④早立ち防止で凍霜害回避

#### (3) 土入れ（5葉期以降）

- ・5葉期以降に、雑草防除と排水対策もかねて、圃場の条件をみながら計画的に実施する。
- ・土壌水分が高いときに行うと、土塊が大きく麦が埋まり土から出てこなくなるため、必ず土壌が乾燥した状態で行う。
- ・分けつ初期に土入れが多いと、分けつを抑制することがあることから、土入れの量は、基本的に生育初期は少なめに、生育が進むにつれて量を増していく。

##### 【土入れの効果】

①防寒 ②保肥力増大 ③倒伏防止 ④無効分けつ制御 ⑤雑草防除 ⑥排水促進

#### (4) 排水対策

- ・ 本年は播種～現在まで、積算の降水量は少ないものの定期的に降雨が見られ、湿潤傾向の圃場が散見される。今後の降雨量も平年並みか少ない予報ではあるが、排水対策は重要である。
- ・ 土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように努める。  
→特に、トラクターカルチで土入れを実施する場合には、排水不良（うね溝の停滞水が多くなる）となりやすいので、うね溝と排水口とをつなぐように徹底する。
- ・ 近年は温暖化の影響で大雨が降ることが多い。水が溜まったら排水溝に逃がす作業を必ず実施する。

#### (5) 雑草対策

- ・ 雑草の発生が目立つ圃場では、雑草の種類や生育状況を確認し、時期を逸しないように生育期処理剤（茎葉散布）を処理する。

(注意)

麦踏み：麦踏前後の除草剤散布は薬害を助長するため避ける。

土入れ：土入れを除草剤散布後に行うと、雑草の蒸散作用が抑制され有効成分の根部吸収が妨げられるので控える（特にステージの進んだ雑草の場合、十分間隔をあける。）

～麦圃場でよくみられる雑草（広葉）～



ミチヤナギ



トゲミノキツネノボ  
タン



アメリカフウロ



ノミノフスマ



イヌタデ



ヤエムグラ



カラスノエンドウ

生育期除草剤 使用例

農薬名	有効な雑草	使用量	希釈水量	使用時期	総使用回数
		10a当たり			
バサグラン液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	100～ 200ml	70～ 100L	雑草3～6葉期 小麦：収穫45日前まで 大麦：収穫90日前まで	1回以内
ハーモニー75DF 水和剤	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ カズノコグサ	5～10 g	100L	播種後～節間伸長前 (スズメノテッポウ：5葉期まで) (カズノコグサ：1～3葉期まで) 小麦のみ 播種後～穂ばらみ期まで 収穫45日前まで	1回以内
	<p>※ハーモニー75DF水和剤使用上の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・播種後にハーモニー細粒剤Fを散布した圃場は使用不可</li> <li>・薬害が生じやすいので周辺作物に注意</li> <li>・使用器具の洗浄をよくし、他作物との併用はしない</li> <li>・展着剤であるサーファクタント30との併用を推奨</li> </ul> <p>一年生広葉雑草の例 ミチヤナギ、タデ類、トゲミノキツネノボタン、アメリカフウロ、ノミノフスマ (ヤエムグラ、カラスノエンドウには効果が弱い)</p>				
エコパート フロアブル	一年生広葉雑草 (イネ科を除く)	50～ 100ml	100L	節間伸長開始期まで (広葉雑草2～4葉期) (ヤエムグラ2～6節期) 収穫45日前まで	2回以内
	<p>※エコパートフロアブル使用上の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤエムグラ優先圃場で使用する</li> <li>・重複散布は薬害が生じやすいので避け、麦が生育不良の場合は使用を避ける</li> </ul>				

カモ対策

- ・カモ対策については麦作情報第1号を参照。

# 令和7年産 麦類生育期間気象グラフ

(アメダス観測地点：佐賀，データ更新日：2月10日)

三神農業振興センター

